

一人暮らし老人宅の雪下ろし作業について

期間：2011年1月26日（水）から1月28日（金）

はじめに

2011年の年明けは穏やかなスタートで始まったものの、大寒の時期は特に激しく雪が降り続いた。ここ新庄最上の各地の集落でも積雪が2.0mを超えると云う大変な豪雪となった。降りしきる雪の多さに比例するかのよう、屋根の雪下ろしや除雪作業中の事故が多発していた。特に高齢者の事故が多く、その報道は連日テレビや新聞等で伝えられていた。

私達はそんな悲報に触れるにつけ、特に一番大変な「一人暮らしの世帯」などの雪下ろしのお手伝いが出来ないものかと考えていたので、1月25日に新庄市役所に出向き「雪下ろしで困っている、特に老人世帯のお手伝いは出来ないものか」と、何らかの形で地域ボランティア活動を行いたい旨の申し出を行った。

市の担当者からお話を伺うと、市内の除雪は建設会社はもちろん、「シルバー人材センター」の方でも除雪の予約が殺到し順番待ちの状態、対応仕切れないとの実情を伺った。特に一人暮らしの老人宅で本当に困っている、「危ない」と思う家から市職員が交替で除雪作業に出ているとの事で、私達の申し出は大いに歓迎された。早速明日からでもお願いしたいと云う事で1月26日から3日間に日程で人力による除雪ボランティアをさせて頂く事となった。紙面の都合上そのうち1軒のお宅の除雪作業について紹介したいと思います。



雪下ろし前のお宅。2階部分以上に1階部分の積雪がスゴイ！！



2階の屋根に雪崩留めがあるものの命綱をつけ慎重に作業開始。

除雪作業状況（Kさんのうちの場合）

除雪2日目の27日の朝は新庄にとっては久しぶりの青空が広がった。Kさん宅には朝9:00頃に5名で伺った。家主のKさんが玄関で出迎えてくれていた。「朝のお茶でも・・・」との話だったが、丁重に遠慮して早速作業にとりかかった。自宅に隣接して大きい水路が流れており周囲の空き地にも雪を捨ててもいいとの了解を貰っているとの事なので排雪の条件は良かった。

Kさんの話では、この大雪で自分ではどうすることも出来なくて2階の襖の戸の開閉も出来なく、困り果てていたとの事であった。作業は屋根に3人、下での排雪に2人に別れて行った。

ハシゴを使い1階、そして2階の屋根に上がった。2階の屋根の中ほどと軒先に雪崩留めの金具がしてあった。反対側の雪崩留めを掘り出してそこにザイルを結び、片方のザイルに安全帯を結びつけて作業を開始した。

建ててからどの位になる家屋なのだろうか、2階の屋根で雪をスノーダンプで運ぶ時、屋根が少し揺れる様な感じが少し気になった。

下の方の作業も大きめの雪の固まりは砕いて広くて深い水路に、手際よく流した。久々の好天に恵まれたこの日は、寒さも和らぎ勾配のある水路には10数cmの水が流れており、砕いて捨てた雪を勢いよく下流に運び去ってくれた。

Kさんからは午前10時と午後3時に温かいお茶の差し入れをして頂き、乾いた喉をじっくりと潤すことが出来た。

午前中に屋根の雪下ろしを終え、午後からは家の廻りの雪片付けをし、午後4:30までにはすべての作業を終了した。

感謝の手紙が届く・・

Kさん宅の雪下ろしを終えた翌週の月曜日、Kさんから1通の手紙が会社に届いた。

そこには自宅が今年で築56年になること、また今年の豪雪で部屋の襖や障子が開かなくなっていたこと。そして毎日の雪で一人悩み、心配で熟睡が出来なかったこと。それが今日からは安心して休む事ができます。との感謝と御礼の文面で綴られていた。

その手紙に接して、私達の小さな活動に対しこんなにも喜んでくれる人がいる事に、私達の方が大きな励ましを頂いたように思う。

おわりに

私達は建設会社のように除雪機や排雪ためのダンプなどは持っていませんが、今回の取組みを一時的なもので終わらせる事なく、私達にも出来る小さな事でも率先して取り上げて、「地域に少しでも貢献できる活動」をこれから継続的に実践していきたいものと改めて考えています。関係機関の皆様には今後ともよろしくお願い致します。 (2011年2月4日記)



雪下ろしの鉄則！！
屋根のてっぺんから下の方に・・



午後は全員で
家屋廻りの排雪を行う。



雪下ろし終了後の屋根。 今日からは
安心して休めるとの手紙が・・